

2023 年度 スポーツとジェンダーに関する会員の研究成果

- ※ 情報提供のあった業績のみ掲載、アルファベット順、敬称略
- ※ 研究業績は原則として、『スポーツとジェンダー研究』投稿規定の文献記載の方法によることとするが、修正等によるミスを防ぐため申請通り記載した。

〈池田恵子〉 (<https://researchmap.jp/read0187331/>)

池田恵子 (2023) スポーツ. 山口みどり他編著. 論点・ジェンダー史学. ミネルヴァ書房: 京都, pp.116-117.

〈井谷恵子〉

井谷恵子 (2023) 「沈黙する『体育嫌い』の声を聴く研究が語るもの」 We Learn .vol.831 pp.4-7. 日本女性学習財団.

井谷恵子 (2023) 『『体育嫌い』とスポーツの文法』女子体育. 65 巻 10 号 pp.10-13. 日本女子体育連盟.

井谷恵子・井谷聡子・関めぐみ・三上純 (2024) 「LGBTQ+支援の専門家が語る学校体育の現状と未来」科学研究費補助金による研究成果発信用ブックレット. 全 16 ページ.

(<https://www.pegp.info/報告書リーフレット>)

井谷恵子 (2024) 「LGBTQ+はなぜ『体育嫌い』になるのかー誰一人置き去りにしない体育のために」体育科教育 4 月号. pp.15-19.

井谷恵子 (2024) 「体育カリキュラム」ジェンダー事典. ジェンダー事典編集委員会編. 丸善出版株式会社: 東京, pp.432-433.

〈井谷聡子〉

井谷聡子 (2023) 「Q14 トランスジェンダー女性による女性スポーツ参加をどう考えたらよいでしょうか」浅井春夫ほか (編著). Q&A多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育 バッシングに立ちむかう 7 4 問. 大月書店, pp.66-68.

井谷聡子 (2024) 「スポーツにおける女性差別とトランスジェンダー排除の関係性」社会学評論 74(4). 印刷中.

〈掛水通子〉

掛水通子 (2024) 女子スポーツ・女子教員. ジェンダー事典編集委員会編. ジェンダー事典. 丸善出版株式会社: 東京, pp.448-449.

〈加藤凌〉

加藤凌・佐藤善人 (2023) 中学校保健体育教師の男女共習体育授業に対する認識に関する一

考察：体育教師の職業的社会的視点から．スポーツ教育学研究，43(1)：13-31.
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjses/43/1/43_430102/_article/-char/ja)

加藤凌・佐藤善人 (2023) 日本の男女共学制成立期における男女共習体育授業の理念に関する一考察：文部省における理解と松沢中学校体育教師の小川竹尾の言説に着目して．教育医学，68(4)：258-275. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsehs/68/4/68_258/_article/-char/ja)

加藤凌・佐藤善人・佐藤哲・蒲健一 (2024) 中学校保健体育教師が抱く男女共習体育授業の理念に関する一考察：ジェンダーの視点に基づく指導・配慮のあり方に焦点をあてて．体育科教育学研究，40(1)：印刷中.

〈三上純〉 (<https://researchmap.jp/j-mikamika>)

三上純 (2023) 体育教師の固定的なジェンダー観と運動部活動文化の関連について—運動部活動経験が体育教師志望に与える影響の分析から—．スポーツ社会学研究 31(2)：59-75.
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsss/31/2/31_31-2-01/_article/-char/ja)

井谷恵子・井谷聡子・関めぐみ・三上純 (2024) 「LGBTQ+支援の専門家が語る学校体育の現状と未来」科学研究費補助金による研究成果発信用ブックレット．全 16 ページ.
(<https://www.pegp.info/報告書リーフレット>)

〈來田享子〉

〈編著・監修〉

(編著) ジェンダー事典編集委員会 (2023) ジェンダー事典，丸善出版：東京.

(監修および著) 一般社団法人スポーツを止めるな (2023) 女子アスリートコンディショニングエキスパート検定テキストブック，東洋館出版：東京.

〈著書 (分担執筆) 〉

來田享子 (2023) オリンピックと平和構築，井野瀬久美恵編『つなぐ世界史 3 近現代/SDGsの歴史的文脈を探る』清水書院，pp. 106-111.

來田享子 (2023) After 2021.02.03—追加された理事がみた「東京 2020 大会とジェンダー平等」日本スポーツ法学会編『東京 2020 オリンピック・パラリンピックをめぐる法的課題』成文堂書店，pp.120-134.

來田享子 (2023) スポーツ・ジェンダー学における新展開，田中洋美・高馬京子・高峰修編『デジタル社会の多様性と創造性 ジェンダー・メディア・アート・ファッション』(第 I 部第 4 章) 明治大学出版会，pp.67-85.

來田享子 (2023) 大会ビジョン「多様性と調和」への取り組みを検証する，二宮浩彰ほか編『東京 2020 オリンピック・パラリンピックを振り返る』(第 3 章) 杏林書院：pp.59-87.

來田享子 (2023) 「やまとなでしこ」賛美と女性選手，三成美保・小浜正子・鈴木則子編『<ひと>から問うジェンダーの世界史』(第 1 巻)，大阪大学出版会，pp.58-59.

來田享子 (2023) 近代スポーツと女子スポーツの成立，三成美保・小浜正子・鈴木則子編『<

ひと>から問うジェンダーの世界史』(第1巻), 大阪大学出版会, pp.214-215.

<論文等>

來田享子 (2023) 近年のオリンピック・ムーブメントにおける人権に関する基本方針の動向-開催都市契約の改正と「IOC 人権に関する戦略枠組み」の公表を中心に-, 令和4年度日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告IV「体育・スポーツにおける暴力・虐待・差別等の人権侵害防止に関する調査研究」: 7-19. (https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/supoken/doc/studiesreports/2021_2030/R0404.pdf)

<佐野信子>

佐野信子、2023年、ジェンダー平等推進に寄与する学校体育の在り方の一提案〜「男女共習体育」を包含する「ジェンダー平等な体育」について〜、立教大学スポーツウエルネス学部紀要、第1号、pp.45-49. (発行は3月21日予定)

<申恩真> (<https://researchmap.jp/shin9>)

申恩真 (2023) 女子サッカー選手の労働と生活. 現代スポーツ評論 48 : 141-149.

申恩真 (2023) 寄稿・サッカー女子 W 杯「ジェンダー平等の指標に」. 共同通信社 (全国の新聞社 11 紙に掲載 (2023/10/06 日本海新聞 ・2023/09/30 北日本新聞 ・2023/09/19 秋田さきがけ ・2023/09/18 河北新聞 ・2023/09/13 神戸新聞 ・2023/09/13 山陰中央新報 ・2023/09/12 福島民友新聞 ・2023/09/10 愛媛新聞 ・2023/09/09 京都新聞 ・2023/09/09 中国新聞 ・2023/09/07 南日本新聞)、(閲覧可能な HP) <https://www.hokusei.ac.jp/news/182614/>.

<鈴木里歩>

鈴木里歩 (2024) 二階堂トクヨの女性身体観 : 「身体美と装い」の観点から. スポーツとジェンダー研究 (22) 印刷中.

鈴木里歩 (2024) 二階堂トクヨの女性身体観 : 家族を生きる女性身体. 総合女性史研究 (41).